

サザンクリーンセンター推進協議会理事会

日時：平成21年5月18日（月） 7:00～8:40

場所：南部総合福祉センター 2階会議室

出席者

上原裕常	玉城朗永	金城豊明	大城英和
古謝景春	川平善範	中村信吉	神谷信吉
古堅國雄	仲里 司	上間 明	城間信三
金城吉夫	島袋賢栄	大城純孝	

事務局 理事全員の出席ですので定刻通り始めさせていただきます。
まず冒頭本協議会の会長である古堅与那原町長から挨拶を頂いてから議事の進行に移りたいと思います。宜しくお願い致します。

会長 皆さんおはようございます。皆様には早朝から御協力頂きありがとうございます。なぜ早朝会議になったか少し触れさせていただきますが、首長を始め理事の皆さんが大変忙しい時期を迎えて5月一杯は無理だと、6月も出張等が重なり、定例議会等もありますので6月も無理だというような事で、これではいつ会議が開けるか見通しが立たないというような状況でありましたので今日の早朝会議をお願いした次第でございます。どうぞご理解いただきたいと思います。

このサザン協も皆さんのご協力のお陰を持ちまして、去る21年3月31日に任期を全うする事が出来ました。至らない、力不足の所も多々あってご迷惑をお掛けした事もありましたが、皆さんのご協力をもって任期を迎えることが出来ました。大変ありがとうございました。後で議事の中に役員人事の選出についてという事で議題を上げてありますが、この議題は最後にもって行きたいと思います。決算から予算、まずは審議して最後に人事案件を審議したいと思います。それから今日の議事進行であります。会則にあるとおり新役員が決まるまでは私の責任であるようですので進行させて頂きたいと思っております。

平成19年のサザン協の立ち上げから20年度の第1から第4までの各部会、色々取り組んでおりまして、後で事業報告にもあると思いますが、お手元に配布した資料の中の総括等も目を通しながら議事を進行させて頂きたいと思っております。そしていよいよ21年度、22年度、島尻消防清掃組合が23年度一杯で閉鎖予定という方針が決定されておりますので、そういう短期的な問題あるいは長期的な問題等々含めて非常に大事な時期を迎えていますので、新しい役員が決まりましたら新体制の下でしっかり取り組んで頂けたらと思います。以上挨拶にしたいと思います。

- 事務局 会長ありがとうございました。議事に入る前に新しい理事が加わりました。与那原町の仲里議長が議長選挙で当選しておりますのでご挨拶を頂いてから議事に入りたいと思います。仲里議長宜しくお願い致します。
- 仲里議長 皆さんおはようございます。与那原町議会議長の仲里司でございます。前又吉議長から引き継いでサザン協に参加させて頂きますが、全く初めてのことなので先輩方の指導を受けながら共に頑張っていきたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願い致します。
- 事務局 ありがとうございます。それでは議事に入りますが、その前に本会の会則の第 8 条第 2 項に議長は会長をもってあてるという会則がございますので、引き続き古堅会長に議事の進行をお願いしたいと思います。宜しくお願い致します。
- 会長 それでは日程第 2 から諮っていききたいと思います。日程第 2、報告第 1 号、平成 20 年度事業報告について配布された資料をご覧になりながら事務局に説明を求めます。
- 事務局 「報告第 1 号平成 20 年度事業報告について」（以下説明）
- 会長 ただ今事務局から平成 20 年度の事業報告がございました。これについてご質疑、御意見、御提言でもかまいませんので宜しく申し上げます。
- 理事 お互いサザン協を立ち上げて色々な経過を通しての訳ですが、その中でも気になる所ですが、南部のごみ処理のあり方、三清掃施設組合の事務局が出している問題含めて最終処分場というのがあちこちに出ている所ですが、これまで 2 回、3 回と失敗を繰り返し、これからお互いが目標を作ってやるとしてもゼロエミッションで出来るだろうと。これまでの状況からした場合、最終処分という事が問題になって中々受け入れるのが厳しい。であるならばこの資料も読ませて頂いたが、浦添方式、局長さん方も懸念する所は書かれている訳ですが、しかし今浦添の方でも最終処分場は必要ではある。お互いでも最終処分場は必要ではあるが、今後建設を進める中においてどうしても最終処分というのに掛かりがあって中々踏み込めない。であれば他の市町村でやっているような状況で本土の方で処理して頂くというような事でお互い話は進めてきたけども、全部最終処分場の状況で、理事会できっちり決めておかないと、必要なのは分かるが、これまで何回も理事会や首長会議の中では最終処分場が入る事によって受け入れ市町村が中々ないと。これは必要ではあるけれども外さないといけなのではないかという事でやってきたが、また戻ったというのは何かしら不安があるがそのあたりははっきりさせて頂ければと思います。
- 会長 その点について将来は完全なるゼロエミッション化、或いは限りなくゼロエミッション化方式の方向で行きたいと糸満市の再加入の時も説明を申し上げてきましたし、今、市長からもご指摘がありました今後最終処分場を造るという事になると、地域からも大変

な抵抗があるというのも見越してゼロエミッション化方式でとシフトした経緯があります。ですからその方針に変わりはないという事は私自身もそう思っているし理事の皆さんもそう思われていると思いますが、何で今最終処分場がどうのこうのというのが事務局から出るのかというご指摘ですが、それについては私達も技術的にはプロではないので見落としがあってはいけないという事と、もう一つは建設費の問題等々、当然あらゆる角度から検討しないといけないというような思いがありまして、実際に各地の現場を視察して、これで間違いないという形までしっかり確認を取り付ける為にも事務局が主体的に視察研修をしてきて、既存の施設の皆さんの意見を聞きながら結果としてまとめてあるものです。ですから今懸念されるのは建設費、これは試算が前にも出ていましたが、ゼロエミッション化方式にもって行きますと熔融施設が伴って参ります。それに伴う建設費がありますけども、最終的にそれも含めてゼロエミッション化という事で再確認をする意味でこういう形で資料を提起しておりまして、基本方針はぶれていないという事でご理解頂きたいと思います。

副会長 前々から思っておりますが、また最初の轍を踏もうという形で進んでいる感じが致しております。第1回目の玉城も失敗しました。第2回目の大度も失敗しました。何故失敗したかという反省を踏まえると、最終処分場というのはこの南部地区で迷惑施設としてどこも受け入れるような要素はないのではないかとというのがこれまでの結果としての私の感想であります。その中で糸満市も大度という事で議会も反対して、しかしながらごみ問題というのはパイを大きくすると金がかかるのでそれを将来は南部一円で処理したほうがいいだろうという様な時に、最終処分場というのは大変難しいと。その中でゼロエミッションを目指した施設ができるのではないかとという事で、それを目指して糸満市も含めてやろうという事で私はその認識であったが、今日一番びっくりしているのは各清掃組合の事務局長が最終処分場の合意形成は可能だという事を書いている。何故今までこれだけ失敗したのかという事、反省も踏まえて局長に聞きたいんですが本当に可能かということを確認して、今我々がこれまでの最終処分場、灰熔融と3パターンの金目を以前出している。最終処分場が一番安いという事でそれを玉城にも大度にも進めてきた経緯がある。それをまた新たに検証して経済的な面で安いという事で、最終処分場ありきで仮に進んでまた失敗した場合には誰が責任を持つかというような事さえ懸念される。これをしっかり我々はこの一年で議論して、どうあるべきという事をまとめないと、また同じ結果になるのではないかと思っている。これまでの経緯を踏まえて私はそう感じている。

理事 ゼロエミッションのお話がありましたけど、ゼロエミッションはあるんです。渡嘉敷でやっているのはゼロエミッションです。石炭とコークスでやって、向こうは年に2回位焼いていますけど、焼いた後は法律に従って県にスラグを持って行って検査を受ける。検査を受けてゼロエミッションなんですよ。廃棄物は出ないです。コークスだから費用が高くつくとか色々ありますけど、最終処分場が造れない状態でゼロエミッションを目指すのであれば還元熔融炉■■■。今掛かっている費用の90%で向こうが焼いていい

と。全部向こうが機械も従業員も連れてきてサザン協が計画しているものを費用、例えば一億かかるなら 9 千万で焼いてもいいと。それで全然最終処分するものも出ない。これは渡名喜村に行って聞けば分かると思います。向こうも年 2 回焼いてますから。それで焼いたスラグを県に持って行って検査させますから、出てくるのはスラグ。だから冷蔵庫、テレビ、ガラス、陶器、そういうのを全部焼ける。約 2,000℃位まで上げて焼きますので。そういうゼロエミッションあるんですよ実際的に。大分県でも新日鉄方式、石油とコークスなんですよ。安全性もあるしガスとか重油を使うよりも一番安全性も高いという事で新日鉄方式が取られているのが座間味も入っていたんですが、座間味第 3 セクターというのを自分達で作って自分達で出来るといってやって焼き焦がらせてそれを我々は後から見に行つてがっかりしたわけですね。しかし渡名喜の場合にはきれいにアフターもさせて、座間味を見てびっくりして最初は座間味が安くしてあげると言うから座間味にさせようと思ったんだけど、やはりメンテナンスというのは専門的な人達にさせるのが普通であつて第 3 セクターを作つて自分達で座間味村でやるという事が失敗の元ではなかったかなという風に思っております。それで一応島尻もあと 2、3 年位で駄目になるというのであれば、今島尻が抱えているごみ、いくら掛かっているか知りませんがとにかく 90%、そして倉浜に預けている、3 清掃組合からのそれも全部 90%で向こうが焼いてあげると。ですから予算的にもこれだけ安くなるわけだから、例えば浦添式にしても結局残渣が残るわけだからそれをまとめて九州に持って行って、それをまた焼いてゼロエミッションにするという方式なんですよ。ですから浦添式にして集めて船で九州に持って行った費用何もかもまず挙げてみて、その 90%で本当に焼いてくれるならこっちの従業員もいらぬし、故障しても向こうがやる。そういう問題もあるから検討する必要があるんじゃないか。

会 長 そういう意味でお互いはプロではないから、メーカーはメーカーなりに自分の所が一番だと宣伝もしますし、それで失敗したのが座間味村だと思いますけど、そういう色々な情報がある中で間違いなくこれで行けるといふものを確認するために、最終処分場が必要であるかないか、或いはどういう現場があるのか等々視察をしてもらったのがこの資料であるので、あくまでも参考にしながら結論をこれから取りたいと思う。

理 事 この間首長会議で集まったときに、最終処分場はもう造らないでおこうと約束しましたよね。またこれが出てくるといふ事になると何がどうなっているのか分からない。一貫して造らないといふ事にしないと同じ事になる。その前に我々も色々と確約していますから、造らないといふ事ではっきりしないとまた同じような事がでてくる。そうすると先程あつたように失敗だといふ事になる。これはやはり相手がいることですから僕は最終処分場を造った場合に、恐らくこれもまた反対される。事実出てきたわけですからそこをはっきりしないと方向性を間違ってしまう。

会 長 今日は理事会ですので最高議決機関ですので、ここで・・・

- 理事 そうではなくて、我々、じゃあその時の首長が集まった時のあれというのは無視にするということですよ。
- 会長 分かりました。ご指摘色々ございました。ご意見はご意見として、他にありませんか。
- 理事 これまで意見を伺っていますと、何かちぐはぐになっている感がするんですよ。最終処分場を要らないとしながら視察研修する。これまで莫大な予算も使ってきている訳ですよ。ある程度目途がついてから視察研修したほうがいいんじゃないかなと。以上です。
- 理事 今八重瀬町長のお話を聞きますと、首長の皆さんが最終処分をやらないと決めたという事は、我々理事会は何ですか。理事会が最高機関じゃないですか。首長の皆さんが集まってそこで最終処分場はいらないと決めたならそれでいいんじゃないですか。首長会議で決まったが、どうしますかという分を諮るべきではないかと思うんですよ。それをまた繰り返して最終処分場が必要とか何とか言うのはちょっと違うんじゃないか。これは首長の皆さんでしっかりそういう最終処分場は要らないという事であれば、どうしますかと今日の会議で上げるべきじゃないかと思うんですよ。
- 理事 各首長、議長からも出ているように、この問題莫大な予算を使いながら結局前に失敗例が 2 箇所ありますよね。理事会でも造らないという具合に決定したと思う。最終処分場は。
- 理事 前から話しているが、この理事会とか或いは首長会議を持ちますね。その時の議事録取っていますか。
- 事務局 勘違いされていると思うんですが、理事会の最高決議機関で最終処分場の必要性の分について審議はしていません。これについて事業総括の中にもあるように 19 年度に処理方法と候補地の選定方法とか第 1 部会の方から 3 方式が示されてそのまま理事会が開かれないままここまで来ている状況なんです。ですからこれを早めに 3 方式をどうする、それとも 3 方式を見送るのかやらないといけない状況ですが、以前糸満市が加入した 7 月に 3 方式については、議事録を読めばわかりますが、南廃協で決めた 3 方式をベースにして今後サザン協は議論していくという形になっていると思います。3 方式についてどれにするかはまだ決めていない状況でございます。
- 理事 4 月 30 日の会議で我々首長は決定というか、そこで確約したわけです。造らないという事を。そこで議論して最終処分場は色々あると、ゼロエミッションの事もあるという事で、また処分場のケースうんぬんになるとこれは恐らくまた破綻するだろうという事で議論されています。

会長 分かりました。この件については受け取り方、ニュアンスがちょっと違ったと反省しておりますが、4月30日の首長会議というのは私としてはそれぞれの地域でそれぞれの課題を抱えて、特に島尻消防清掃組合と、東部とのごみ焼却の問題等々それぞれ糸豊は糸豊でどの程度進捗しておられるのか、そういう三組合の実情をお互い再確認をして情報交換をする場が必要ではないかというような意味で首長会議を開いたつもりです。確かにそこでゼロエミッション化の話も出ていたんですが、あくまでも私としては情報交換の場として、そして最高議決機関であるこの理事会がやはり議決機関ではないかなと理解していた訳ですが、今八重瀬町長から首長会議で決議したという指摘がございましたので、そういう受け止め方をされていることについては私ももう少しその辺確認をすべきだったと反省をしている所ですが。

理事 糸満が入ってくる時点の理事会で動議された感じがするものですから、第1部会の副長の皆さん方の中でも最終処分場を造るうんぬんの話があると。僕ら理事会の状況が第1部会まで通っていないのかという事でこの間言い合いもやった。

会長 今事務局から説明がありましたとおり、第1部会から3方式の答申がございました。その後どれにするかについては、これを参考にしながら一つに絞って頂こうと。3つ答申するのは困るという事で一つに絞って答申してもらうために、第1部会で再度この1年かけて議論をしてもらう形になっていると思います。今確かに意見は出ていました。ゼロエミッション化にしたほうがいいと。埋立最終処分場は難しいだろうと。先程南城市長が言われたとおりご意見も出ておりましたが、理事会での決議というのは私の記憶ではこれから3方式をベースにして議論をして最終的に結論を出そうという事だったと記憶にはあるんですね。今事務局からも説明があった通りだと思いますので、今日は大事な理事会でありますので、そういうご意向であればこれは何も別にどうこうではない訳ですから、皆さんの総意がそこにあればそれで決議を取ってしっかり確定したいと思います。

理事 先程から議論になっている最終処分場を建設しないでゼロエミッション化にすると。基本的にはこの事が一番大事だろうと思っております。そういう面で慎重な意思確認をできると思うんですが、気になるのが情報として熔融炉建設を進めた場合建設費用がどの程度変わってくるのか、その辺が資料として見えてこない部分が私自身あって、そしてまた今後のランニングコストがどういうふうな形に変わっていくのか。一番最終処分場が費用的には格安なのかという感じはするが、そういう面でも課題はある訳で、一方でゼロエミッション化でいった場合どういう様な形で費用が変わってくるのか。その辺の情報は是非提供して頂きたい。すぐゼロエミッション化ありきで、後で費用等の問題が出て費用対効果でとんでもない数値がでてでもこれはまた問題ですから、やはり議論する場合にはそういう資料等も十分準備して頂きたい。

理事 今、西原町長がおっしゃる費用の問題も分かります。ただ、先程から論議されているのは、何のために、最終処分場という事で持ってきた段階で受入れ市町村がないと。一回目の失敗、糸満での失敗を含めてじゃあ名前を変えようと。名前も変えてクリーンな状況で受け入れてもらうという事でお互い最終処分場はなくそうと。確かに費用はかかるかもしれない。必要だという事は分かっている。が、しかしこれまで受入れする所がなかったじゃないですか。だから最終処分場の名称もなくして更にお互いでも最終処分場については2回の失敗もあるし、3回失敗してはいかんという事で最終処分場はなくそうじゃないかという事でやってきた経緯をお互い踏まえておかないと、また同じ破目になるんじゃないかという心配があるわけです。

理事 この間の30日に、ある地域はもしそれを造るのであれば私達はこれを造らせないという事をはっきり言っていますから、今言うようにまた失敗する。費用うんぬんもありますが、最終的には一つになろうと、分母を大きくしようというのが大きな目的であります。それをやってしまうと、その時私の所ももし最終処分場を造るのであれば、その地域は反対しますよという事をはっきりしていますよ。

副会長 西原町長、経費の問題は前に済んでいるんですよ。安いという事で最終処分場を大度に造ろうという事で進んでいたんですよ。それで失敗したんですよ。玉城も。経費というのは大体これが安いという事で進んでいる。それでも造れなかったという2回の失敗がある。それでどうするかという事を我々はある程度理事で今更最終処分場は難しいだろうという大方の合意です。それで糸満に我々は話をしたんです。確かに理事会で決定はしておりません。何故決定していないかという、第1部会でまだ検討中で最終処分場が一番安いという事が出ていたもんですから、対住民に対してしっかりそれを議論すべきだという事で早めに結論を問うて、我々もどういう方向で進むという事を決めないといけないという事でそれでそのままになっている。しかしながら今書類を開けてみると最終処分場ありきでずっと進んでいるもんですから、また同じ轍を踏むという事で、この前の市町長会議で・・・

理事 第1部会から3方式提案されている。今言うような最終処分場ありきという形の前提にはなっていないのではないかと。これからの議論ですよ。

副会長 そういう形で進んでいるように我々は感じるんですよ。それが危ないという事で、我々が当初考えていた最終処分場は難しいんじゃないかという事を理事会で決定したほうがいいんじゃないかという事で、この前の市町長会議でどうすべきかという事をうって、我々首長は最終処分場だったら造れるかという事を私は糸満に言いました。皆さんはゼロにして仮に最終処分場造るならそれいいですかと。そしたら糸満市長もダメだという話をされたんです。私も今ははっきり申し上げて最終処分場という概念でもし南城市に決まったら、私は到底無理だという事を今考えております。この10年では整理するというのは大変難しい状況にあるという事を我々首長としては感じている。それを理想論で

進んで安いから最終処分場という事をやってしまったら、さあ何処が造ると決まった場合本当に責任持てるかというのは、私は今の段階では難しいというような事でこの前は首長でそれを決めた経緯があるんですね。それは今日の理事会では出てくるだろうとは思っていたんですが、今そういう議論になっていますから。私は最終的にここである程度の方向性を示さない限り今後のスケジュールというのがまた同じような轍を踏むんじゃないかという事を思っている。以上です。

理事 今の話ではないが、第 3 部会のごみ減量化の問題。市町の担当者を集めての会議があったようですが、今後の進め方について率直な意見交換を行うと。21 年度の事業に向けて弾みがついたという事が書いてあるんですが、この内容は理事会には出せないんですか。

事務局 この部分はそれぞれの市町の実態の意見交換をやって、これからまとめていこうと意見交換をした段階ですので、具体的なものについてはこれからしっかりまとめて参りたいと思っております。

会長 時間が限られていますので、一応議事進行してから又後でその辺議論したいと思います。

会長 まず 20 年度の事業報告について方式の問題が指摘されましたが、じゃあ 21 年度以降どうするのかという事でありますので、そこの方で方向性を決定、確認できればと思います。20 年度の事業報告については宜しいでしょうか。

理事 今最終処分場の件について色々な議論が出ましたけど、もし今言うような部分が、その見解が不足しているのであれば、それは早めに理事会の中において決議するという形でやって頂きたいと思います。

会長 いずれにしても、この件については非常に重要なポイントだと思います。これから第 1 部会で答申された 3 つの方式から絞り込んでいって、今年度一杯には方式を答申してもらおうという予定でありましたが、今南城市長から指摘があったように、最終処分場ありきの方向で調査が進められているというような感触を受けて非常に危惧しているという事でありますので、そこら辺をいきなり理事会で決定して、処理方式を第 1 部会で続けている作業を止める形になるかと思いますが、その辺も後で議論をしてもらいたいと思います。

会長 平成 20 年度の事業報告は 21 年度とも繋がってきますので、報告について質疑がなければ進めたいと思いますが宜しいでしょうか。

(異議なしの声)

会 長 それでは次に日程第 3 認定第 1 号決算の説明を事務局お願いします。

事 務 局 「平成 20 年度決算について」(以下説明)

会 長 次に監査報告を監事の石原明さんからお願いします。

監 事 おはようございます。読み上げて監査報告と致します。平成 20 年度サザンクリーンセンター推進協議会歳入歳出決算について次のとおり監査を実施したので報告します。監査実施年月日、平成 21 年 4 月 20 日、監査所見、平成 20 年度の決算監査にあたり、当該会計の現金出納簿、証憑書類、預金通帳及び各種帳簿等を監査した結果、帳簿の記帳、証憑書類の整理、現金出納並びに保管状況はいずれも的確であり、適正に処理されていることを認めます。平成 21 年 4 月 20 日、監査委員石原明。以上です。

会 長 20 年度決算について質疑ありませんか。

会 長 ないようですので日程第 3 認定第 1 号の決算については承認して宜しいでしょうか。

一同 「異議なし」

会 長 ありがとうございます。平成 20 年度決算については原案どおり承認されました。次に日程第 4 議案第 1 号平成 21 年度事業計画(案)と日程第 5 議案第 2 号の平成 21 年度予算(案)については関連しますので一括で審議しても宜しいでしょうか。

(異議なしの声)

会 長 異議なしの声がございましたので日程第 4 議案第 1 号、日程第 5 議案第 2 号については一括審議したいと思います。事務局の説明を求めます。

事 務 局 「平成 21 年度事業計画(案)」「平成 21 年度予算(案)について」(以下説明)

会 長 ただ今事務局から説明がございました。この件についてご質疑ございませんか。

理 事 地域だよりですね、決算にも出ておりますけども、いつも議会から言われるのはお互いの負担金の問題。その中で地域だよりについても議員の中からも色々出ますが、私共の市の広報 24 ページですか、出しておりますけども概ね 500 万の予算なんです。当然職員がやっているんですがそういう中においても今回も印刷製本費がでておまして、今回からは嘱託でやるという事なんですけど、お互いの会議の状況についてはなるべく各市町村広報はあるので、必要な分の広報については、例えば理事会での決定事項だとかそういうのは各々市町村の広報誌のほうで出して頂ければ少しでも負担金の軽減が

できるんじゃないかなという事を考えておりますので、是非ご検討頂ければと思います。

会 長 前にも豊見城市長のほうから指摘がありましたけども、少しでも経費を軽くするという節約の意味で受け賜っていますが、広報活動の効果というのは非常に大きなものがあるんじゃないかと。地域住民末端各家庭までごみに対する認識或いは取り組み等々についてごみの減量の効果等も真剣にお互い南部は一つのごみ処理施設建設に向けて取り組んでいるという啓発活動が各家庭まで浸透しつつあるんじゃないかと。その効果のごみ減量化に繋がってるんじゃないかというふうに私は理解しておりますが、もしそれが不要ないと、或いはもっと■■■すべきであるという事であればそれはそれなりに検討しなければいけないと思いますが・・・

理 事 必要だという事は分かっています。分かってはいますがこれもスタートは理事会の内容やサザン協、最終処分場の組織の時からもオープンにお互い島尻の住民に知らせようとスタートした訳でありますけども、今長期計画等々の中においても必要不可欠な状況については各市町の広報誌のほうで市町村の住民には知ってもらうという方向も検討すべきじゃないかという提案です。

会 長 分かりました。この件について他にご意見ございませんか。そういう方向で検討して宜しいでしょうか。ご意見がなければただ今のご指摘について今年度はこういう形で進めさせて頂いて、次年度からという形になろうかと思いますが、そういう形で宜しいですか。

理 事 今の広報の件なんですけど、20年度の予算では、決算のほうでは325万出されていますが、今回囑託にした関係で180万、相当安くなってると思うんですけど、今の豊見城市長の話の内容からすると、この180万で出来るか出来ないかという問題が出ると思うんですけどその辺はどうですか。

会 長 内容を絞り込んでいくとか、ページ数を少なくするとか色々努力工夫をしないとイケないと思いますが、事務局は大丈夫と見ているのか。

事 務 局 減った理由については見積り入札をしました。そしてできるだけコストを落とすようにやりました。それともう一つ委託については南廃協時代にもすごく繁忙しておりましたので、広報まで職員の力が回らなかったのもそういう状況で続いてきた経緯があってそれを打ち切りまして、囑託を採用して今後職員として管理するという形にしたので安くなりました。等々やっておりますが、これは十分今の状態で出来るというふうな形で考えております。

理 事 これはカラーで？

事務局 枚数と誌面は変わらなくてやれると。見積をもらっておりますので。

理事 1款1項1のほうの報酬なんですが、監査員はお一人なんですか。

事務局 監事は二人です。現在西原町から会計管理者を充てておりますが、当時は西原町の会計管理者が決まりませんでしたので理事会を開くいとまがなく、一人で対応していたという状況があります。一応二人分を計上してあります。

理事 前は2万1千円組まれて今回1万4千円なんですね。

事務局 前は南産協の清算がありましたので途中で監査をやる必要があったもんですから、前はこの金額ですが、今回は年一回の二人分という形です。

理事 それと小さいことですが、需用費のほうで前回は9万余り、今回は20万といきなり倍くらい消耗品関係でいってるんですがこの関係についてお願いします。11節です。

事務局 今回は特に予算執行する予定はございませんが、この位必要だろうという事で計上してあります。

理事 住民代表170万8千円ですけど、この内訳はどうなっていますか。

事務局 これは第1部会と第3部会の住民委員でございますが、18名おまして大体月1回のペースで会議を開催したいと考えております。1人1回8千円となっております

事務局 殆どが仕事に就いている方々をお願いしており、仕事を休んで会議に参加している関係上、以前は1万円でしたが、最近の財政事情が厳しい折、金額を下げた8千円にしてあります。主婦の方も何名かはおりますが、そういう状況を勘案しております。

理事 21年度の事業計画なんですが、第1部会、第2部会、第3部会、第4部会とあるんですが、中身が余り分からないですよ。第2部会においては財政計画の検討とあるが、どういう財政計画の検討をするのか。その中身ですね。

会長 当然部会の中で部会長がおまして、第1部会でしたら処理方式の選定、3つから1つに絞り込む作業が予定されていた訳ですが、これはあとで決議をしてもらいたと思いますが、2番目の候補地選定の方法。候補地を何処にどういう形で問題点を整理して選定していくか等々、地域振興部会・第2部会は財政計画、建設費からランニングコストから或いは地域振興費等々、場所によっても違うと思いますし、どういう処理方式を選定するかによっても建設費とかランニングコストとか変わってきますので・・・

理事 そうすると各部会で検討されたものがもう一回理事会に上がってくるという事ですか。

会長 上がってくる計画です。

(進行の声)

会長 進行の声がございますので質疑を打ち切りたいと思います。

会長 日程第4議案第1号平成21年度事業計画(案)と日程第5号議案第2号平成21年度予算(案)については原案どおり承認して宜しいでしょうか。

一同 「異議なし」

会長 ありがとうございます。議案第1号、第2号については全会一致で原案どおり承認されました。ここで休憩します。

(休憩)

会長 再開します。日程第1選挙第1号役員の選出についてを議題と致します。役員の選出については選出方法として、推薦によるものと選挙によるものがあるかと思いますが、どう致しますか。

理事 推薦でいいんじゃないですか。

会長 推薦でというご発言がございますので、推薦によって役員選出を認定したいと思います。

理事 それでは推薦の弁を前会長であります金城豊明・豊見城市長にお願いしたいと思います。

理事 色々お話もありましたが、これまでの古堅町長のリーダーシップ等々含めて、やはり引き続きサザンクリーンセンター推進協議会の会長とし、更に副会長の皆さんも留任して頂いて、是非この事業の展開を宜しくお願いしたいということで、現体制の推薦を古堅國雄町長を中心にひとつ21年度以降も宜しくお願いをしたいという事で推薦を致します。ご同意宜しくお願い致します。

会長 他にございませんか。

(なしの声)

会長 ただ今金城豊明市長から提案がございましたが、この形で異議ございませんか。

一同 「異議なし」

会 長 それでは異議なしと認めて新体制は会長に古堅國雄、副会長に古謝景春、神谷信吉、この三役体制で進めていきたいと思いますが異議ございませんか。

一同 「異議なし」

会 長 ありがとうございます。これで三役が決まりました。監事について事務局から説明を求めます。

事 務 局 監事 2 名についても内諾を頂いております。お 1 人は八重瀬町の会計管理者の石原明さん、それから西原町の会計管理者の伊藝繁さんであります。理事会の承認を宜しくお願いします。

会 長 ただ今事務局から説明がございましたが、それについてもそういう形で進めたいと思いますがご異議ございませんか。

一同 「異議なし」

会 長 異議なしと認めます。

会 長 それから大事なことを漏らしておりますので確認をさせて頂きたいと思います。20 年度の事業報告、或いは 21 年度の計画（案）についても議論されましたように、処理方式についてはこれまでの方針としては、第 1 部会で色々議論して今年一杯に方式を 1 つに絞ってもらう方向で進めておりましたが、理事の皆さんからの全面的な、処理方式についてはゼロエミッション化方式でやるべきだという事の強いご発言がございました。そういう方向で方式としてはゼロエミッション化の方式で、限りなくゼロエミッション化の方式で進めていくという事で確認を取りたいと思いますが宜しいでしょうか。

(はいの声)

会 長 他にご意見ございませんか。この確認が漏れていましたので。

会 長 それではご異議ございませんね。

一同 「異議なし」

会 長 異議なしと認めて、限りなくゼロエミッション化の方式を採用していくという事で決定したいと思います。理事会決定にしたいと思います。

会 長 以上議事進行ご協力ありがとうございました。事務局宜しく申し上げます。

事 務 局 それでは議事は終了致しました。次に閉会の挨拶を副会長の古謝市長宜しくお願い致します。

副 会 長 皆さん早朝から大変ご苦勞様でございます。このサザン協は前に 2 回失敗した南廢協を受けての新たな取り組みという事で今進めておりますが、多くの課題を抱えてのスタートではございますが、古堅会長を軸に、我々もまた襟を引き締めて、お互いの共通の課題なんだという事をしっかり方向性を定め、大きな議論の中でそれを決めていくという事が大事だろうと思っております。これまで最終処分場ありきで進めてきた我々の議論が糸満市を最後に大変難しい状況であるという事で、ある程度私共の認識でございましたけども、なかなかその結論を得るまでにはなくて、またあたかも最終処分場が造るという前提で進められて本当に我々首長としてそれが責任持って出来るかというような事も大変危惧をしておりましたが、今日理事会の中で方向性がゼロエミッションに近い方向性を決めるんだという事が、方針が決まったという事は、ある程度市民にも理解を示すことが出来るのではないかという事で私は一歩前に出た感が致しております。そういう事で是非今後とも本当にお互いの共通の大きな課題でありますから、一緒に頑張っってそれを解決に向けて頑張るという決意で締めたいと思います。ありがとうございます。

会 長 これで本日の全日程を終了します。ご苦勞様でした。